

【越後雪かき道場上級コースの総評】

プログラムの内容は概ね好評であったが、アンケート結果にもあるように、「参加費」、「開催日程」、「地元とのつながり」において課題が提起される。

次年度以降、越後雪かき道場(上級コース)を定例化する場合、小型車両系建設機械の運転技能講習の参加費は、通常1人12,000円と高額であるため、参加者との負担割合などをどう決めていくかが課題である。ただしこの経費を負担したくないという意見はなく、半額～5,000円程度までなら負担してもいいという意見が多くなっており、今後の計画づくりの参考とすべきであろう。

また、労働安全衛生法に基づく技能講習であり、2日間(13時間)の拘束時間が必須であるため、遠方からの参加者は前泊する必要がある。今回のように祝日を挟んだ連休を利用することも有効であるが、その他のイベントと併せて、前泊の時間を有効に利用することも検討が望まれる。

なお、ホイールローダの講習は、冬期に限定せず開催できる講義であるため、除雪機械の安全点検と併せて開催することも有効である。

4 - 4 - 4 湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会 (湯沢町社会福祉協議会)

(1) 実施目的

新潟県湯沢町では、平成 17 年度の豪雪時にボランティアに来ていただいた方を、「湯沢町福祉除雪ボランティア隊員」として登録している。このボランティア隊員のうち、特に町外の方々を対象として、冬期シーズン中に最低 1 回は湯沢町内の高齢者宅の除雪を行う機会を設け、交流を継続するとともに、ボランティア活動の意欲を高め、仲間を増やしていくための講演会事業を実施する。また、同じ「福祉除雪ボランティア」仲間同士での交流を行い、参加者の絆を深め、地域貢献の輪を広げるものとする。

さらに、雪の降らない大都市圏のボランティアの方が、豪雪地において除雪ボランティアを継続したくなるような「モデルボランティア活動地域」を目指す。

(2) 当日スケジュール

一日目	16:00	湯沢町社会福祉協議会職員集合 (湯沢町公民館)		
	17:00	ボランティア集合 (湯沢町公民館)		
	18:00	参加者集合 81 人 開会宣言		
	18:05	講演会 「活動報告と湯沢町の皆さまへ」 十日町市川西 夢雪隊 関口昌生氏 青森市赤坂スノーバスターズ 佐藤好文氏 財団法人日本システム開発研究所 諸橋和行氏		
	19:10	挨拶 湯沢町社会福祉協議会長 樋口昌保氏 湯沢町ボランティア連絡協議会 会長 中谷真利子氏 来賓挨拶 国土交通省都市・地域整備局地方整備課 島多昭典氏		
	19:15	乾杯 湯沢町災害ボランティア協会 会長 駒形虎次郎氏 町外からのボランティアさんにインタビュー		
	20:45	閉会 湯沢町ボランティアセンター 所長 南雲實氏		
	二日目	9:15	参加者集合 31 人 (湯沢町ボランティアセンター)	
	9:45	雪かき講習 (かんじき・スコップ・スノーダンプ) 地元指南役 笛田氏 樋口氏		
	11:30	越後雪かき道場初級コース 修了認定証授与 指南役講評 解散		
12:00	旭原福祉工場にて昼食 解散			

（3）実施内容

湯沢町福祉除雪ボランティア交流会の実施に際しては、前節4 - 4 - 3の「越後雪かき道場」と連携を図ることとし、「第5回越後雪かき道場 in 湯沢町」という位置づけで開催した。一日目は、湯沢町内ボランティアと町外ボランティアの交流を目的とした講演会及び懇親会を行い、二日目は主に町外ボランティアを対象として雪かきの実践講習及び雪かき体験を行った。

<一日目（講演会：18:00～19:10、懇親会：19:10～20:45）>

- ・湯沢町公民館を会場とし、当日の参加者は合計81人（内訳：町外17人、町内ボランティア49人、社会福祉協議会15人）であった。
- ・講演会では、十日町市川西にある除雪ボランティア組織「夢雪隊（むせつたい）」の関口昌生氏、青森市で地域コミュニティによる除雪ボランティア活動を展開している「赤坂スノーバスターズ」の佐藤好文氏の両名から、これまでの先進的な活動を紹介していただいた。
- ・講演会の後は同じ会場で立食形式の懇親会を開催した。町内外のボランティアがそれぞれ自由に歓談し、交流を深めた。

写真4 - 32 会場の準備



写真4 - 33 受付



写真4 - 34 講演会場の様子



写真4 - 35 夢雪隊関口氏の講演



写真 4 - 36 赤坂町会佐藤氏の講演

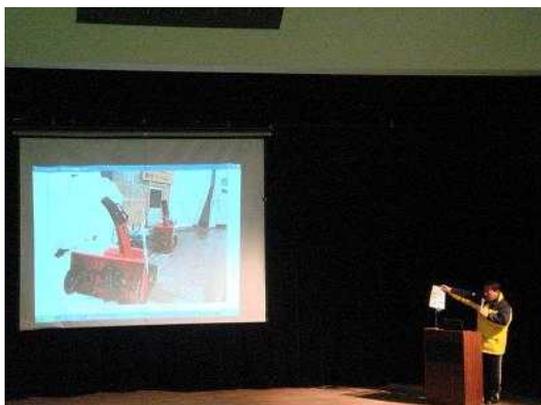


写真 4 - 37 雪かき道指南書の解説

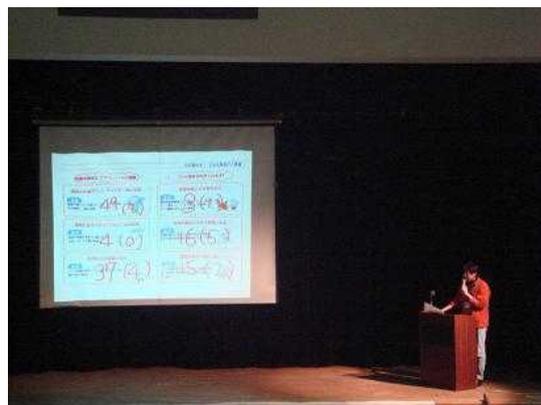


写真 4 - 38 懇親会乾杯の挨拶



写真 4 - 39 町外参加者インタビュー



写真 4 - 40 懇親会の様子



写真 4 - 41 最後の一本締め



<二日目（雪かき体験・実践講習：9:45～11:30）>

・二日目の参加者は31人（内訳：町外21人、町内ボランティア6人、社会福祉協議会4人）であり、越後雪かき道場として、地元の指南役から実践講習を受けた。

写真4-42 いざ出陣



写真4-43 かんじき講習



写真4-44 地上の雪かき講習



写真4-45 ひとやすみ（水分補給）



写真4-46 指南役の講評



写真4-47 記念撮影

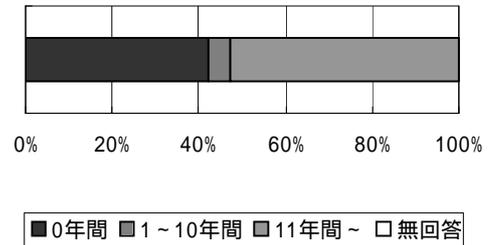


(4) 評価 - アンケート結果 -

回答者自身について

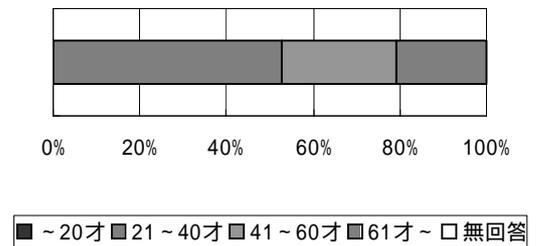
雪国での生活経験

	回答者数 (割合)
0年間	8 (42.1%)
1～10年間	1 (5.3%)
11年間～	10 (52.6%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



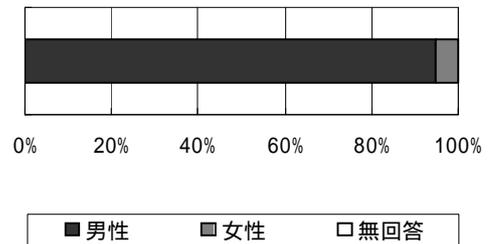
年齢

	回答者数 (割合)
～20才	0 (0.0%)
21～40才	10 (52.6%)
41～60才	5 (26.3%)
61才～	4 (21.1%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



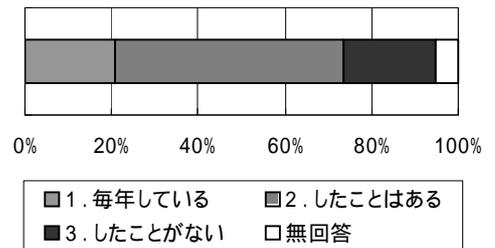
性別

	回答者数 (割合)
男性	18 (94.7%)
女性	1 (5.3%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



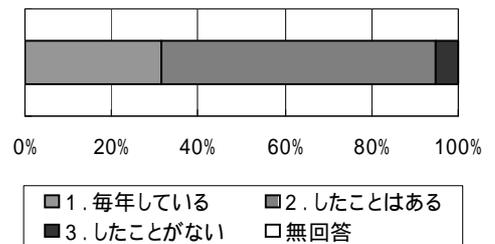
屋根の雪下ろしの経験

	回答者数 (割合)
1. 毎年している	4 (21.1%)
2. したことはある	10 (52.6%)
3. したことがない	4 (21.1%)
無回答	1 (5.3%)
合計	19 (100.0%)



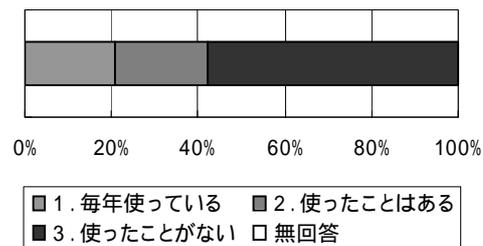
家屋周囲の雪かきの経験

	回答者数 (割合)
1. 毎年している	6 (31.6%)
2. したことはある	12 (63.2%)
3. したことがない	1 (5.3%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



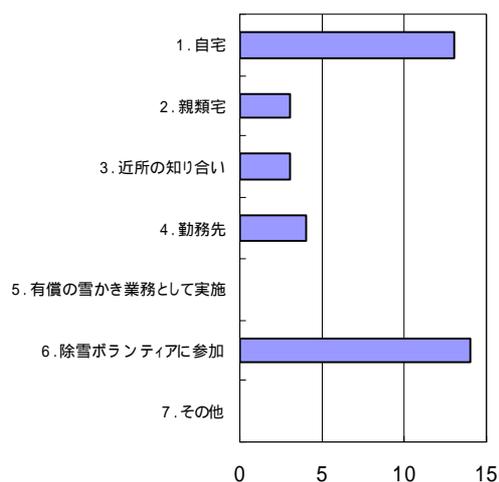
除雪機械の使用経験

	回答者数 (割合)
1. 毎年使っている	4 (21.1%)
2. 使ったことはある	4 (21.1%)
3. 使ったことがない	11 (57.9%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



主な雪かきの対象 (複数回答)

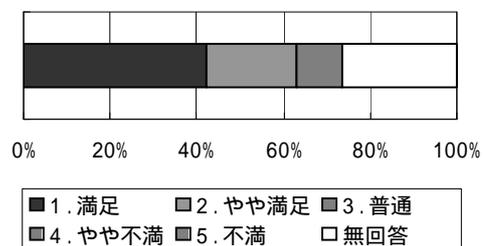
	回答者数 (割合)
1. 自宅	13 (72.2%)
2. 親類宅	3 (16.7%)
3. 近所の知り合い	3 (16.7%)
4. 勤務先	4 (22.2%)
5. 有償の雪かき業務として実施	0 (0.0%)
6. 除雪ボランティアに参加	14 (77.8%)
7. その他	0 (0.0%)
	18 (100.0%)



1日目の講演会について (無回答には1日目の不参加者を含む)

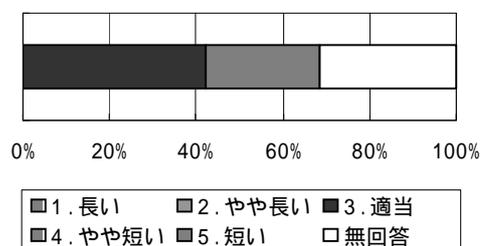
内容

	回答者数 (割合)
1. 満足	8 (42.1%)
2. やや満足	4 (21.1%)
3. 普通	2 (10.5%)
4. やや不満	0 (0.0%)
5. 不満	0 (0.0%)
無回答	5 (26.3%)
合計	19 (100.0%)



時間

	回答者数 (割合)
1. 長い	0 (0.0%)
2. やや長い	0 (0.0%)
3. 適当	8 (42.1%)
4. やや短い	5 (26.3%)
5. 短い	0 (0.0%)
無回答	6 (31.6%)
合計	19 (100.0%)



感想や提案など

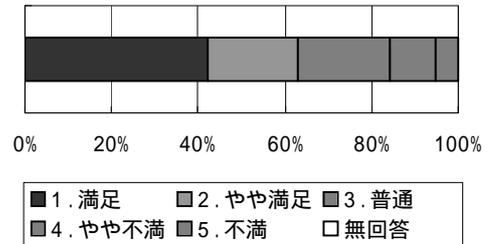
- ・ 大変良かった。一般の人にこの内容を知らせてほしい。
- ・ 除雪のノウハウを教えてもらえてよかった。

- ・今回が初めての参加だったが、少雪だったので、講演会での話が大変参考になった。
- ・もっと詳しく聞きたかった。
- ・貴重な体験であり、先進的な取組を知ることができた。

2日目のボランティア除雪について

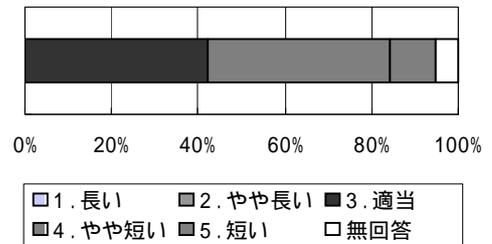
内容

	回答者数 (割合)
1. 満足	8 (42.1%)
2. やや満足	4 (21.1%)
3. 普通	4 (21.1%)
4. やや不満	2 (10.5%)
5. 不満	1 (5.3%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



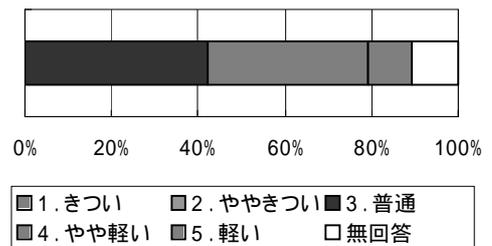
時間

	回答者数 (割合)
1. 長い	0 (0.0%)
2. やや長い	0 (0.0%)
3. 適当	8 (42.1%)
4. やや短い	8 (42.1%)
5. 短い	2 (10.5%)
無回答	1 (5.3%)
合計	19 (100.0%)



体力的負担

	回答者数 (割合)
1. きつい	0 (0.0%)
2. ややきつい	0 (0.0%)
3. 普通	8 (42.1%)
4. やや軽い	7 (36.8%)
5. 軽い	2 (10.5%)
無回答	2 (10.5%)
合計	19 (100.0%)



感想や提案など

- ・もう少し雪があればよかった。
- ・良好。長い間続ける必要がある。もっと他の人にも知らせる必要あり。
- ・講習会は雪がなかったので、時間が短いのは止むを得ない。前日の講演会、交流会は大変良かった。
- ・昨年に比べると作業自体はだいぶ軽めだったが、逆に時間にゆとりがあったため、かんじきや逐一の助言などをいただき、楽しく、気楽に雪かきに取り組むことができた。
- ・かんじきの使い方を教えてもらえてよかった。
- ・少雪なので除雪自体は簡単だった。かんじきなどの体験は非常に面白かった。
- ・建物周囲の除雪編、屋根の雪下ろし編の2つあれば実践的ではないか。

自由意見

- ・また来年参加する。
- ・これからも毎年来たいと思う。
- ・青森赤坂雪かき道場を開催することにしたい。また、都市近郊を対象に除雪ボランティアを募集したい。
- ・今年は雪不足のため実効性が少なかったが、来年以降も継続してほしい。
- ・雪がありすぎる場合、なさすぎる場合でも続けられる仕組み、企画を作ることの素晴らしさと難しさを感じた。来年度も開催されることを期待している。
- ・交流会では、地元の山菜などを出してもらおうと外から来た人は喜ぶ。
- ・2~3人の小グループをつくり、作業中互いの安全確認を必ず行うようにすればよいと思う。20~30人規模になれば初対面の人が多くなり、「ヒト」としか認識できないが、具体的な名前を覚えられれば「~さん」という知人になるので、注意力が向上すると思う。
- ・昨年は一度しか呼ばれなかったので、もう少し呼んでほしい。
- ・今後も続けていきたい。

4 - 4 - 5 高齢者世帯における冬期居住意向調査 (湯沢町社会福祉協議会)

(1) 調査の対象

65才以上の世帯と障がい者等の世帯

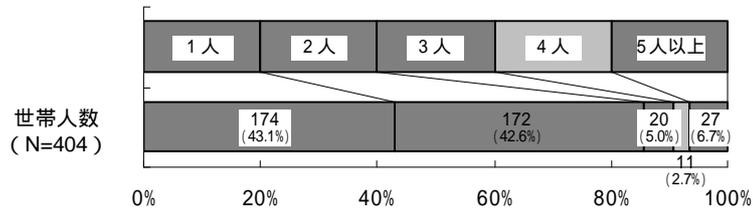
- ・ 郵送でお願いする世帯 : 主に 65 才以上 74 才までの世帯 (前期高齢者の世帯)
- ・ 聞き取り調査をする世帯 : 主に 75 才以上の世帯 (後期高齢者の世帯)

(2) 調査の目的

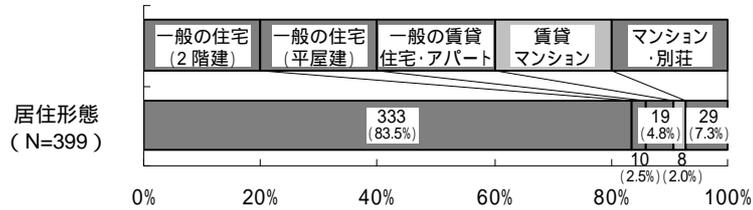
雪国で生活する私たちが、どのような生活環境であったら「安心して安全な」生活ができるのかについて調査を実施し、今後の福祉施策に資する。

(3) 調査結果 (抜粋)

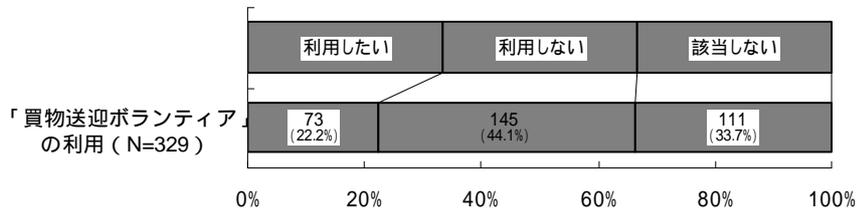
1) 世帯人数



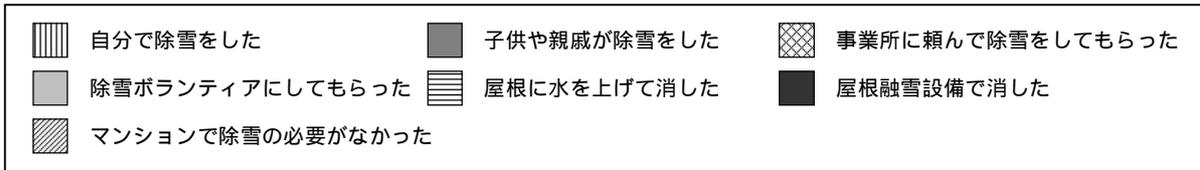
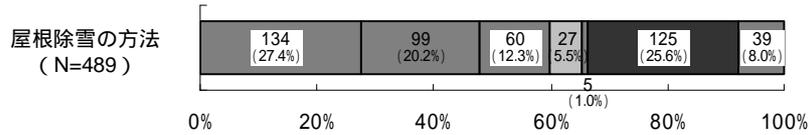
2) 居住形態



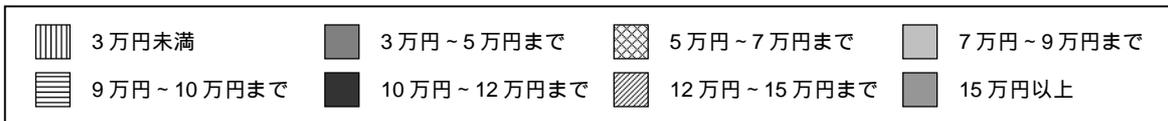
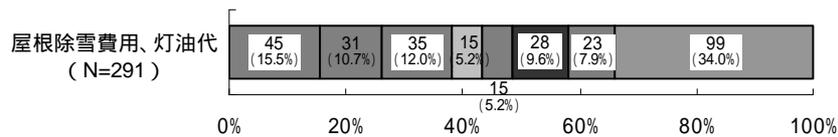
3) 「買物送迎ボランティア」組織があるとした場合の利用意向



4) 平成 18 年豪雪時の屋根雪除雪の方法



5) 平成 18 年豪雪時の屋根除雪賃金や灯油代金などの融雪代金

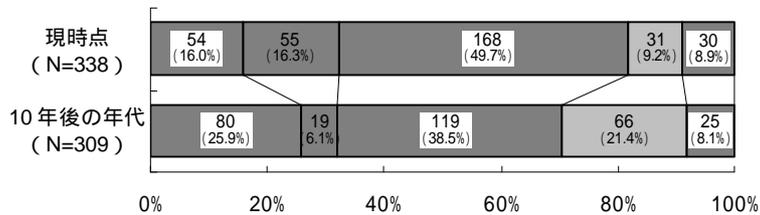


6) 冬期居住の意向

現時点ではあなたなら以下のような条件の家があったら、どのように思いますか
 10年後の年代になったと仮定しあなたはどのように思いますか

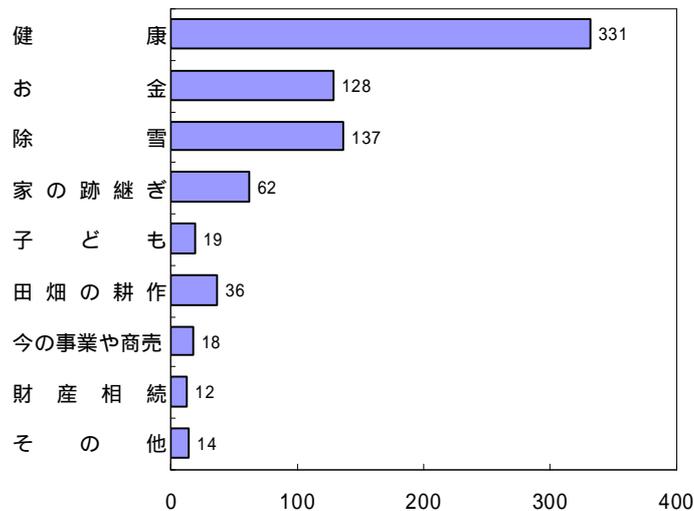
(条件設定)

条件1	費用は光熱費・共通費・食事材料代などで1ヶ月40,000円と仮定します
条件2	人数は10人程度で共同生活します
条件3	食事は、ボランティアの方々と皆さんで協力して3食つくります
条件4	生活する部屋はそれぞれ個人個人の部屋があります
条件5	健康管理のために「けんこつ体操」などを行い健康の維持を図ります
条件6	みんなと世間話しが出来るオープンスペース(場所)があります
条件7	家の除雪はボランティアがします
条件8	自分の家には自由に行ったり来たりできます



	冬だけ入ってみたい		まだ若いのでそんな考えはない		家が良くて、また家が心配で入りたくない
	子どもが「その方が心配ないから入った方が良い」と言えば入りたい		費用が高くて入れない		

7) 心配なこと



4 - 5 新潟部会における成果(総括)

新潟部会において実施してきた検討会議及び実証実験等の結果等に基づき、新潟部会の検討課題別に、本調査の成果及び今後の方向性を総括・整理すると、以下のとおりである。

課題 1 (調査検討)	雪に関する事故の死傷者を減少させる	「雪かき道 越後流指南書の作成」
<ul style="list-style-type: none"> ● 雪に関する事故を防ぐための暗黙知を記述した指南書(ガイドブック)と啓発用のユキカキカルタを完成させた。 ● 初心者のみでなく、雪に慣れた地元のベテランからも高く評価していただいた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指南書はPDFファイルとして、Snow-rescueのホームページ(http://snow-rescue.net/)等に掲載し、マスコミ等を通じて広く発信する。関係機関、関係者等に配布する。 ● 越後雪かき道場と連動させて活用し、更新・修正すべき情報をフィードバックしながら、適当なタイミングで第2版を作成する。 ● 指南書「除雪ボランティア・コーディネータ編」を引き続き検討し、第1版の完成を目指す。 		
雪かき道 越後流指南書		Snow-rescue ホームページ
		

課題 2 (実証実験)	中山間地の集落等における高齢者の雪下ろし作業の安全確保を図る	「雪かきビーコンの試作と動作実験」
<ul style="list-style-type: none"> ● 除雪作業中に事故や発病により動作が停止した場合、速やかに周囲の人や家屋内の家族が気づくことにより、事故発生時の早期発見・早期救助に資する機器を開発した(試作)。 ● さらなる改良と検証が求められるものの、有効性は概ね確認された。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実用化に向けたさらなる性能試験及び改良を図る。 ● 雪かきビーコンを効果的に活用するためのマニュアル等を整備する。 ● 積雪量の多い中山間地の集落等における日常の除雪作業での使用実験を実施する。 		

**課題3
(実証実験)**

雪処理の担い手を育成し、コーディネートする仕組みを構築する

「越後雪かき道場の開催」

- 雪処理の担い手を育成し、活動機会・場所をコーディネートするため、「越後雪かき道場」というプログラム(仕組み)を開発し、合計5回実施した。
- 参加者及び受け入れた地元側の双方において、効果と有効性が確認された。
- 平成18年度実績
 - ・初級コース4回開催：修了認定者94人、 上級コース1回開催：修了認定者14人

平成18年度越後雪かき道場 実績

回数	コース	開催日	開催地	修了者数
第1回	初級	1月20日～21日	長岡市 山古志地区 種苧原	13
第2回	初級	2月3日～4日	小千谷市 塩谷地区	24
第3回	上級	2月11日～12日	長岡市 山古志地区	14
第4回	初級	2月24日～25日	長野県飯山市 戸狩地区	32
第5回	初級	2月24日～25日	湯沢町 旭原地区	25

第5回は「湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会」と合同開催

越後雪かき道場 運営のポイント

-) 当日の現場の状況に応じて、プログラムを柔軟かつ臨機応変に調整・変更する。
-) 指南役は地元住民に依頼し、事務局は参加者と指南役とをつなぐ役割を担う。
-) 修了認定証を発行し、参加者の達成感と満足度を高めるとともに、地元側においても意識を変えるきっかけとなるよう留意する。

【今後の方向性】

- 中級コースのプログラム(屋根の雪下ろし講習)の開発
 - 今冬は少雪のため、中級コースを実施できなかった。雪下ろし作業中の事故は深刻な問題であるため、中級コースのプログラムを検討・開発する。
- 中級コースの実施場所(雪下ろし講習ができる場所)の確保
 - 中級コース(雪下ろし講習)が実施できる場所(屋根)を安定的に確保することも重要である。既存の公共施設や民間施設等と連携しながら、冬になるとあの場所で行っているといった常設の「道場」(例えば長岡市山古志地区あまやち会館など)の確保を図る。
- レベルの高い実践メニューの開発
 - 安全技術の獲得と普及、リピーターの確保、ネットワークの拡大に向けて、命綱講習、転落訓練、雪庇処理など、レベルの高い実践メニューを開発する。
- 継続できる体制づくり
 - 継続するためには、採算性を考慮したプログラムと実施体制の整備が不可欠であり、NPO法人中越防災フロンティアを中心とした今後の事業展開の方法や可能性について検討を進める。

課題 4 (実証実験)	地域外の除雪ボランティアと平時からの関係づくりを図る 「湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会の開催」
<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 19 年 2 月、湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会を当初の予定通り開催した。町内外の除雪ボランティアが交流し、地域防災に資する新しい関係を構築することができた。 ● 湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会の実績 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会及び懇親会 81 人 (町外 17 人 町内ボランティア 49 人 社協 15 人) ・ 雪かき体験・実践講習 31 人 (町外 21 人 町内ボランティア 6 人 社協 4 人) <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成 19 年度の湯沢町社会福祉協議会事業計画では、福祉除雪ボランティア隊を湯沢町に来ていただくだけの一方通行的なボランティアではなく、相互に助け合えるボランティア交流にするための検討を進めることとしており、今回の交流会を踏まえて、より実効性の高い事業を実施する。 ● 町外の福祉除雪ボランティア隊登録者は、首都圏を中心に「点」として存在しており、これを面的な広がりにしていくため、他の社協やボランティア団体と連携した新規事業について検討を進める。 	

課題 5 (意向調査)	冬期間のみの一時的な居住（移住）施策の可能性を探る 「高齢者世帯における冬期居住意向調査」												
<ul style="list-style-type: none"> ● 湯沢町をモデルとした高齢者等の冬の新しい住まい方として、以下の仮定を設けた。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>湯沢町冬期居住モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件 1 費用は光熱費・共通費・食事材料代などで 1 ヶ月 40,000 円と仮定します 条件 2 人数は 10 人程度で共同生活します 条件 3 食事は、ボランティアの方々と皆さんで協力して 3 食つくります 条件 4 生活する部屋はそれぞれ個人個人の部屋があります 条件 5 健康管理のために「けんこつ体操」などを行い健康の維持を図ります 条件 6 みんなと世間話しが出来るオープンスペース（場所）があります 条件 7 家の除雪はボランティアがします 条件 8 自分の家には自由に行ったり来たりできます </div> ● 上記モデルに対する高齢者世帯の潜在的ニーズが以下のように明らかとなった。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>冬だけ入ってみたい</th> <th>子どもがすすめれば入りたい</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在</td> <td>54 人 (16.0%)</td> <td>31 人 (9.2%)</td> <td>85 人 (25.2%)</td> </tr> <tr> <td>10 年後</td> <td>80 人 (25.9%)</td> <td>66 人 (21.4%)</td> <td>146 人 (47.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本アンケート結果を今後の福祉行政に係る各種施策の検討に反映させていく。 ● 現在湯沢町で進めている災害時等緊急時救援システムの構築に反映させていく。 			冬だけ入ってみたい	子どもがすすめれば入りたい	計	現在	54 人 (16.0%)	31 人 (9.2%)	85 人 (25.2%)	10 年後	80 人 (25.9%)	66 人 (21.4%)	146 人 (47.3%)
	冬だけ入ってみたい	子どもがすすめれば入りたい	計										
現在	54 人 (16.0%)	31 人 (9.2%)	85 人 (25.2%)										
10 年後	80 人 (25.9%)	66 人 (21.4%)	146 人 (47.3%)										